

はじめに

教職は、日々変化する子どもの教育に携わり、子どもの可能性を開く創造的な職業といわれています。教員を取り巻く社会状況が急速に変化し、学校教育が抱える課題も複雑・多様化している現在、教員には、最新の専門知識や指導技術等を身に付けていくために、「学びの精神」がこれまで以上に強く求められています。

また、新学習指導要領の本格的実施段階に入り、学校は、「生きる力」をはぐくむための具体的な手立てを確立するという観点から、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、地域や学校の実態に応じて、適切に教育課程を編成・実施し、創意あふれる（特色ある）教育活動を展開していく必要があります。

栃木県総合教育センターでは、これまでも、教職員の資質能力の向上のための研修を実施するとともに、学校組織マネジメントや授業研究に関する調査研究を行い、学校課題解決に向けた取組を支援してまいりました。

平成18年7月の中央教育審議会答申「今後の教員構成・免許制度の在り方について」では、校内研修の充実の必要性について「個々の教職員の資質能力向上だけでなく、学校におけるチームワークを重視し、全体的なレベルアップを図るという観点から、校内研修の充実に努める必要がある」と述べています。

本冊子は、学校の組織力の向上という視点から、校内研修の在り方や効果的な進め方についてのポイントを整理し、具体的な研修プログラムを紹介するものです。校内研修を充実させる一助として、御活用いただければ幸いです。

平成22年11月

栃木県総合教育センター所長

瓦井 千尋

目 次

はじめに

第1章 校内研修についての理解・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

- 1 校内研修とは何か
- 2 今なぜ校内研修の充実が求められているのか
- 3 校内研修を充実させることで期待できる効果は何か
- 4 校内研修の現状 –アンケートの結果より①–
- 5 校内研修の課題 –アンケートの結果より②–

- ◇ 組織力を高める
- ◇ 校内研修と学校組織力との相関

第2章 校内研修改善のための10の視点・・・・・・・・・・・・ 13

- 1 校長のリーダーシップ –校内研修の重要性を認識する–
- 2 実践的なチーム編成 –機動的な組織づくりを工夫する–
- 3 問題の発見と共有 –学校の現状や児童生徒の実態を踏まえる–
- 4 課題の明確化と計画立案 –PDCAを意識して計画を立てる–
- 5 参画意識の醸成 –協働して研修の企画・運営に当たる–
- 6 人材の効果的な活用 –学校の内部及び外部資源を活用する–
- 7 実践的な指導力の向上 –校外研修・自己研修との関連を図る–
- 8 授業研究の充実・改善 –授業研究会を活性化する–
- 9 成果と課題の共有 –改善につながる評価を工夫する–
- 10 継続・更新のための組織化 –改善の方向を見いだす–

- ◇ 「組織学習」の原動力としての校内研修

第3章 学校で使える校内研修プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

1 問題解決・目標実現を目指す研修・・・・・・・・・・・・・・・・	36
・事例① 自校の現状把握	小・中・高
・事例② 目標の共有	小・中・高
・事例③ 課題の焦点化と解決策の立案	小・中・高
・事例④ 実践の評価・成果の共有	小・中・高
2 授業力向上のための研修・・・・・・・・・・・・・・・・	44
・事例⑤ 目指す授業像の共有	小・中・高
・事例⑥ 授業研究会	小・中・高
・事例⑦ 言語活動の充実	小・中・高
・事例⑧ 学ぶ意欲の向上	小・中
3 各種教育充実のための研修・・・・・・・・・・・・・・・・	53
・事例⑨ 進路指導（学年運営）	高
・事例⑩ 進路指導（自己推薦文の指導）	高
・事例⑪ キャリア教育（自校の教育活動の見直し）	小・中・高
・事例⑫ 特別支援教育（通常の学級における特別支援教育）	小・中・高
・事例⑬ 人権教育（人権に配慮した環境づくり）	小・中・高
・事例⑭ 児童・生徒指導（規範意識の醸成）	小・中・高
・事例⑮ 学校図書館教育（読書活動）	小・中・高

◇ 学校課題に関する研修

参考文献・資料・・・・・・・・・・・・・・・・	72
-------------------------	----

◇ 本冊子は、栃木県総合教育センターのホームページからダウンロードできます。
ホームページアドレス：<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

◇ 本冊子の内容についての問い合わせや、校内研修支援についてのご相談は、
下記までご連絡ください。
問い合わせ先： 栃木県総合教育センター 研究調査部 TEL028-665-7204